

「つなぐ」～たじり一貫教育だより～ No.15

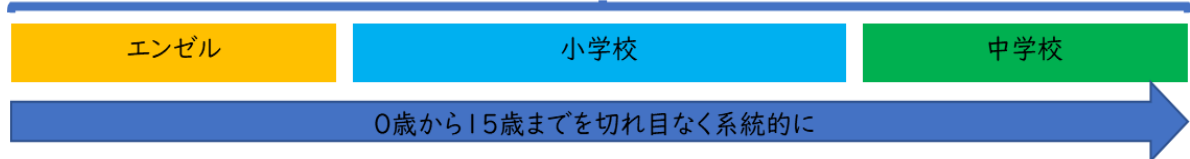
0歳から15歳の子どもたちがともに学び、ともに成長する教育をめざして

一貫と連携のちがい

連携教育→情報交換や交流等しながら円滑な接続をめざす

一貫教育→めざす子どもの姿の共有、系統的な教育をめざす

全教職員でめざす子どもの姿を共有



一貫教育が求められる背景

学校園の課題の多様化・複雑化（不登校の増加、日本語指導が必要な子どもの増加、保護者のニーズの多様化、支援教育の対象となる子どもの増加、教育活動の高度化）、発達の早期化、子どもの連続した学びや育ちへの認識 等



施設を充実させることで効果アップ!!

教育施設整備における教育委員会の考え方



校種を超えた異年齢の交流

校種を超えた教職員の交流や協働

様々な交流や連携・協働により、子どもたちの心の成長、教職員の相互理解が図られている



0歳から15歳までの子どもたちが、ともに学びともに過ごす施設とすることで、自然発生的な子どもたちの異年齢交流が生まれ、**思いやりや社会性が自然に育まれる**。また、教職員や保護者間の情報共有や連携がスムーズになることから**きめ細やかな対応**ができるようになる。

これからも園・小・中の「つながる」取り組みを発信していきます！



園・小・中の取り組みはこちらのQRコードからご覧ください。ホームページ➡

